

アイルランドのリンクスコース

松山久秋

リンクスと言えばスコットランドが有名ですが、アイルランドにも素晴らしいリンクスコースが数多くあります。8月末に友人とアイルランドに行き、そのいくつかでプレーしました。

リンクスあるいはリンクスランドとは、海岸と耕作地の間にあって、ふたつをリンクする(つなぐ)土地、すなわち、木や作物が育たない、砂地の荒れ地のことだそうです。実際に100年以上の歴史があるリンクスコースに行ってみると、ブルドーザーも何もなかった時代に砂丘のうねりをそのままにコースが作られた感じがします。全英オープンのテレビ中継で見ると、木が無く、ラフの草は膝丈、フェアウェイはうねっている、正にそんなコースでした。全英オープンで選手がよくやるように、グリーン周りからパターで寄せるのも真似してみました。

8月とはいえ、気温は最低10度、最高18度位で、民宿に毛の生えたような小さい宿では、夜は暖炉にまきがかくべられていました。宿のコック兼主人に「曇っていて寒いけど、これが8月の普通の気候か？」と聞いたら、半そで・半ズボンの主人は、「えっ、これで寒いって？」と、怪訝そうな顔をしました。ギネス・ビールがお腹にいっぱい詰まっていそうな、ビア樽型の主人でした。

滞在中、概して天気は良かったのですが、ラウンド中に何度か雨に降られました。気温が低く、風が強い中で、雨に降られると寒かった。ダブリンの海沿いのコースではドア付きのバギーがありました。(写真)こんなバギーはここでしか見たことがありません。あるコースでは、「ここはウォーキング・コースなので、バギーは医学

的に必要な人しか使えない」と言われました。手引きカートを使うか、キャディーを雇うしかありません。リンクスコースは砂丘のような起伏があるので、手引きカートは骨が折れます。

厳密な意味でのリンクスではないかもしれませんが、この世の奇跡と言ってもいいようなコースがありました。それは、アイルランドの南西部、大西洋に突き出た小さな半島の全体を使って18ホールが配された、オールドヘッドというコースです。(写真参照、また、YouTubeの動画もご覧ください。)コースの外周は高さ100メートルの断崖になっています。「境界を越えたボールは放棄しなければならない」との注意書きがあります。崖にボールを拾いに行く、命知らずの人がいるとも思えませんが、オールドヘッドでプレーした日は、幸いに晴れて、風も弱く、奇跡のように美しい景色を堪能することができました。ちなみに、このコースは、タイガー・ウッズが毎年、全英オープンの前に練習に訪れていたことで有名になって、米国からの客が多いそうです。厳密な意味でリンクスでないと言ったのは、このコースは1990年代に大幅に人の手が加えられて作られたコースだからです。自然保護の活動家による反対運動があったそうですが、自然保護上は観光地化して多くの人が押し寄せるよりもましだったかもしれません。

宿で出されたアイリッシュ・コーヒーの味が忘れられず、出発間際の空港のバーでも一杯所望して、アイリッシュ・ウイスキーの酔いとコーヒーのアロマに包まれながら、アイルランドを後にしました。



ドア付きのバギー



オールドヘッド ゴルフリンクス

You Tube の動画は次を参照：

[https://www.youtube.com/watch?v=Z3i1c](https://www.youtube.com/watch?v=Z3i1c32Bo90)

32Bo90